

桜の友

第37号

共立女子第二高等学校同窓会
八王子市元八王子町1-710
Tel.042(661)9952

豊かな感性を育む母校

会長 実方 千里

会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

今回は、私達に身近な桜の話から始めます。

万葉時代のお花見は「梅見」でしたが、平安遷都の際に、枯梅を吉野桜に変えたそうです。

「花期長ければ豊作」など信仰の対象であった桜は、当時の絵や器物に数多く登場し、多様な文様や色目にて、やわらかな心を表現しています。王朝のかさね色では、種類が一番多いのは桜色です。季節の微細な変異を見落とさない古の人々の観察眼には、感嘆いたします。

残念ながら、私の日常は現代のデジタル社会に翻弄されており、腕時計に「本日は歩数が足

りません。運動してください」と叱られるばかりです。何事も

シンプルかつ定量的な情報を求められやすく、スピードや合理性を優先しがちです。便利にはなりましたが、感性は衰える一方に思えてなりません。

改めて考えてみますと、私達が日々過ごしていた母校の緑多き豊かな環境がいかに素晴らしかったのかを実感します。生徒の皆さんが何気ない日々の中で大切な感性が育まれていると考えますと、嬉しく思います。

今年には第二高校創立五十周年の年です。皆さまのご来校を、心よりお待ちしております。



第二高校創立五十周年を

迎えて

校長 晴山 誠也

第二高校は、東京五輪が開催されるこの華やかな年に創立五十周年を迎えることができました。日頃母校の発展のため、皆様に暖かくご支援いただいた賜物だと、心より御礼申し上げます。その節目の年に、今も昔も変わらぬ第二高校の風景を改めて探してみました。

天文教室を覚えていますか？本校独自の課外授業の一つとして今も人気の授業のひとつです。校舎の屋上にあつたおわん型の天文ドームの中で赤道儀（望遠鏡）を使って月のクレターや土星の環、木星の衛星などを観測した記憶をお持ちの方も多いと思います。当時は大西義人先生や多田英次先生、竹之内徳博先生らが熱心にこの教室を企画運営され、数多くのにか天文ファンが生まれたものです。しし座流星群ピークの時はグラウンドで皆あお向けに寝ころび、夜通し観測しました。大火

球を見た時は大きな歓声が沸き起こったものです。このような時に味わう先生と生徒の「感動の共有」は授業では得られない醍醐味です。

二〇一一年、今の校舎に移る際、ドームの移設は困難であることから今はもうありませんが、現在は移動式の望遠鏡を用いて行われています。その様子は当時と変わることはありません。

緑溢れる体育大会、白馬登山での雷鳥との出会い、躍動する白亜祭、温泉も楽しいスキー教室、焚火を囲んでの焼いも大会、様々な生き物と出会う野外授業等々。

制服も校舎も幾度か変わりましたが、年間を通じてキャンパスのあちこちで見かけるその風景はこれからも大切にしていきたいと考えています。

月夜峰に根を下ろして半世紀、本校ならではの特色を大切に、そして何より「心と心がふれあう教育」を原点到、未来へ向けて、そして世界に向けて新たなスタートを切ります。

同窓会報告

第四十六回生

成人を祝う会

令和二年、令和初めての成人の日となる一月十三日に私達四十六回生は、京王プラザホテル八王子にて卒業生とお世話になった先生方が一堂に会する「成人を祝う会」を開催しました。

卒業後初めて大勢の同級生が集う日となり、皆が久々の再会を喜んでいました。中には受付時間よりもずっと前に集まって



いる姿も見受けられました。成人の日を迎え、美しい晴れ着着身に纏った同級生の姿にはどこか懐かしさもあり、また二年前にはなかった大人の女性としての落ち着きも感じられました。さらに、当日は大変お忙しい中にもかかわらず、高橋先生、吉田美和子先生、寺中先生、野田先生、野口先生と五人ものお世話になった先生方にお越しいただきました。会では先生方それぞれからご挨拶と成人した私達に向けたお言葉もいただきました。

先生方や友人たちとの懐かしい思い出話に花を咲かせながら

過ごした二時間半はとても短く感じるものでした。会の最後にはクラスごとに参加した四十六回生全員の写真を撮り、無事に会を終えることができました。今回の会を開催するにあたって、会場の手配や当日の運営をして下さった京王プラザホテル八王子のスタッフの皆さまには感謝の気持ちでいっぱいです。

そして二十年間沢山の愛情を注ぎ育ててくれた両親のおかげで私たちが成人できたことに感謝し、誠実・勤勉・友愛の精神を胸にこれからの人生を歩んでいきたいと思えます。

第四十六回生 吉原若菜



第三十七回生 同期会 小室先生の定年退職お祝い

第三十七回生の学年主任であった小室洋子先生が定年退職されるということで、令和二年二月二十二日に共立女子第二中学校高等学校の校舎で同窓会を開催しました。当日は、当時の担任の先生方、高橋先生、紺木(吉田)先生、湊先生、黒澤先生、田中先生も全員集合して下さいました。



私たちが学んでいた旧校舎は取り壊され、少し寂しさも感じながらの新しい校舎のランチコーナー



での同窓会となりましたが、久しぶりに会う友人や先生方が集まると、当時に不思議と戻ったような気持ちになりました。

幹事の飯田さんの司会にそって、生徒と先生方一人一人からの近況報告がありました。みんなさまざまな所で頑張っているなあと感じると共に、時が経つことの早さに驚きました。卒業したのがついこの前のように感じますが、もうあれから十一年も経ってしまったのです。

小室先生は私たちにとって、当時はすごく厳しい先生で、たくさん怒られた気がします。職員室の

前を通るときあの緊張感はずつと忘れないと思います。しかし、共立女子第二を卒業し、社会に出てたくさんの事を経験し、この歳になると、小室先生のおっしゃっていた一つ一つの事がとても身にしみてきます。改めて素晴らしい先生なのだと思えました。小室先生には、卒業生たちから、似顔絵のお祝いケーキと花束と記念品の贈呈をしました。



今回、成人式以来9年ぶりに、学年通信「虹」を小室先生が作って下さいました。小室先生や他の先生方からの温かいメッセージにとっても感動しました。

2時間という短い時間でしたが、やはり共立女子第二は素敵だなあ、共立女子第二の生徒で本当に良かったなああと改めて感じる、素敵な楽しいひと時でした。この再会に感謝し、また次回同窓会の開催を楽しみにしたいと思います。

第三十七回生

坂田安希子(旧姓 小原)
金子理子(旧姓 飯田)



卒業生を訪ねて

- 五回生 辻 清江さん
- 十九回生 白鳥美樹さん
- 三十回生 久慈雪乃さん
- 三十二回生 橋本宏子さん
- 三十七回生 馬場奈那子さん

今回インタビューをさせて頂いた辻清江さん、白鳥美樹さん、久慈雪乃さん、橋本宏子さん、馬場奈那子さんは、現在在五名全員が八王子市役所で働かれています。



Q. なぜ、今の職業に就こうと思いましたが。

A. (辻さん) 当時は男女雇用機会均等法ができる前で、今より選択の範囲が限られている時代だったので、私はその中で地元だからという点でこの職業を選びました。
 (白鳥さん) 市役所にはあらゆる分野の仕事があつて、さまざまな事ができると思い、地元である八王子のこの職場を選びました。
 (久慈さん) 私は教員になりたいたいという思いもありましたが、公務員という立場からでもいろいろなおアプローチで教育に携われると思つたので、地元の八王子市を選びました。

(橋本さん) 私は大学で、フィールドワークを通じて全国のま

ちづくりを学んでいました。その時に自治体の力はとても大きいと感じ、地元の八王子で公務員として働きたいと思ひました。

(馬場さん) 大学生の時は裁判所事務官になりたいと考えていました。その試験を受けるにあたり、地元である八王子市役所も受けてみようと思ひました。裁判所事務官は残念ながらご縁がなかったのですが、八王子市役所は合格したので、地元に貢献したいと思い、就職を決めました。

Q. その仕事内容を教えて下さい。
 A. (辻さん) 私は消費生活センターに務めています。消費生活センターでは、高齢者を狙った架空請求や大学生などの間で



横行しているマルチまがい商法の被害の相談や、防止のための啓発事業を行っています。私は、若い方への啓発の仕事に携わっています。
 (白鳥さん) 現在、私は学校教育部署教職員課に所属しています。八王子市立の小中学校の先生方の人事・給与に関わる事務をしています。
 (久慈さん) 私は学校教育部署教育支援課に所属しています。転校の手続きや、経済的に困りの家庭に学用品費や学校給食費などの援助を行っています。
 (橋本さん) 私はスポーツ振興





課に務めています。そこでは、子どもから高齢者まで楽しく体を動かすことができるよう、様々なイベントを行っています。また障がいのある人もない人も一緒に楽しむことができるスポーツの器具を貸し出したり、指導員を派遣して広めてもらっています。

（馬場さん）私は男女共同参画課に所属しています。昨年度までは親と子どもと一緒に参加できる講座等を企画し、男女共同参画に基づく啓発活動をしていました。今年度からは計画担当となり、事業の進捗状況の評価等を行っています。

Q. その職場で大事にされていることは何ですか。

A. （辻さん）様々な状況に置かれている方の、それぞれの状



況を見極めて、相手に寄り添った対応をしていくようにしています。

（白鳥さん）いつでも、どんなでも同じように、その人のことを理解しながら、受けとめ、接していきたいです。

（久慈さん）困っている人を助けたいという気持ちを大切に、どの職場に配属されてもこのことは忘れないようにしたいです。

（橋本さん）市役所は堅苦しいイメージがあるので、声をかけやすく、話しやすい職員になれるように心掛けています。

（馬場さん）ただ元気で、明るいただけではなく、相手に寄り添った対応を心掛けています。

Q. 同じ職場に、こんなにもたくさんの方の共立二高の卒業生がい

ることを、どのように思いますか。

A. （久慈さん）通常の業務上のやり取りではあっても、顔を合わせている同士だと連携をとったりやすく、大切な職員のネットワークだと感じています。

Q. 共立女子第二高等学校での印象的な思い出は何ですか。

A. （辻さん）生物の時間に、二高周辺の植物を観察しながら多摩御陵まで歩いて往復したことです。当時は2時間続きの授業だったので、自然観察ながら楽しい時間を過ごしたことが印象に残っています。

（白鳥さん）体育の授業の移動は校舎とグラウンドが遠い上に、5分休憩だったので、とても大変でした。あとスキー教室の時に、バスの中で皆で歌ったことや、就寝時間を守らず先生に怒

られたことも印象に残っています。

（久慈さん）私はソフトボール部に所属していたのですが、練習を離れば、いつもみんなで楽しく笑ってばかりいた記憶が強く残っています。卒業してからも部員たちとは繋がっており、一生の友達ができました。

（橋本さん）私はコーラス部だったので、朝、昼、放課後の練習のイメージが一番残っています。また部員同士でも仲が良く、今でもよく会っています。一生の友達を得ました。

（馬場さん）私が学校から歩いて帰る時に、雨が降ってきてしまったことがあったのですが、その時に生徒の保護者の方が、わざわざ走っている車を停めて傘を貸して下さったことがあり、とても心の温かい保護者がいるのだなあと印象に残っています。

Q. 共立女子第二高等学校での思い出の先生はいますか。また覚えて印象的な授業はありますか。

A. （辻さん）国語の南口先生



から百人一首をすべて暗記するという課題が出されたのですが、その確認が自己申告でした。高校生だった私たちが信じて大人の扱いをしてくれて、嬉しくもあり、また自分自身の責任も感じたことを覚えていません。

(白鳥さん) 英語の田中先生の授業の際に、英語劇でどれだけ面白く演じることができかを競い合いました。田中先生はそれを泣きながら笑って見ていました。

(橋本さん) 私は入学した時に担任の先生が吉田裕子先生だったのですが、入学してすぐに全員の顔と名前を一致させていたので、非常にびつくりしました。

(馬場さん) 夏休みや冬休みにある「ゼミ」の授業が印象に残っています。大学入試の過去問を解くなど、普段の授業とは異なる、自分の実力を試し、伸ばしていく内容はこの後の大学受験にも大きく影響しました。

Q. 最後にあなたにとって、共立とは何か教えて下さい。

A. (辻さん) 先生方の個人的な授業を受け、そのようなことが基礎になって自分の考え方が形成されて、現在の仕事にも役立っていることは共立で培ったものだと思います。

(白鳥さん) 今の自分を形成する上でなくてはならないものがあり、一生の友達や知識を含め、いろんなことが培われたのだと感じます。

(久慈さん) 共立に在学した六年間で誠実・勤勉・友愛の精神が培われ、社会に送り出されているのだと感じています。

(橋本さん) 先輩、後輩の関係性や部活で鍛えた忍耐強さなど、そこでの経験が今の自分の力に繋がっていると思います。

(馬場さん) 部活と勉強の両立の頑張りが必要ならば、大学にも行けていなかったと思うので、自分を形成した根幹の部分は共立で過ごした三年間にあると思っています。

第四十七回生 大塚捺子

榊原実咲

お世話になりました!

昨年度末、長年本校で勤務なさったお二人の先生方が去られることになりましたので、ご紹介いたします。

★小室洋子先生より

とうとうこの日がやってきてしまいました。四十三年前、体育館で新任の挨拶をしてから始まった教員生活、気がつけば一人以上の卒業生が通り過ぎていきました。私の人生の三分の二を共に過ごしてくれた彼女たちに、今は感謝の言葉しかありません。本当にたくさんの思い出と教師としての喜びをいただきました。これからは一同窓生

として母校を応援していきたいと思えます。最後に、もう「共立の丘」からではなくなりますが、皆さんのお幸せを心より祈っております。

★小池聡彦先生より

この桜の友が三十七号ということは、ちょうど自分が共立に勤め始めた時期に第一号が発行されたということ、何か不思議な縁を感じます。退職する今、様々ないい思い出が脳裏をよぎりますが、四月からは気分を一新し、ていねいな生活を心がけたいと思っています。卒業生の皆さまも、どうかいつまでも元気です。



白亜祭

令和元年九月十四日、十五日の二日間で「百花繚乱」をテーマに掲げた、第四十九回白亜祭が開催されました。令和へと元号が変わってから最初の白亜祭となった今年は、校舎内の階段などにも新元号を歓迎した装飾が施されていました。

各フロアでは、テーマの通り個性豊かな作品やイベントが開催されており、どの団体の発表も気持ちのこもった素晴らしいものでした。中学生は東京オリ



ンピック・パラリンピックの開催に合わせ、パラリンピックについての調べ学習や生徒一人一人が自分の興味のあるテーマについて調べ「百華事典」を作るなどの発表をしました。実際に競技を体験できるなどお客様にも楽しみながら学んでいただくことができました。高校生の飲食団体やアトラクション団体なども目を離すことができないものとなっていました。教室内の黒板アートや写真スポット、廊下の装飾も各団体の工夫を感じることができました。また、それぞれのクラスのテーマに合わせてデザインから自分たちで考案作ったTシャツはどれも魅力的な仕上がりになっていました。他にも有志団体による企画などもあり、とても賑わっていました。

校舎内だけでなく、大講堂や体育館での各部活動のイベントやOG・先生方との試合など、さまざまなクラブが日々の練習の成果を活かしており、輝かしい活躍を見ることができました。両日とも天候に恵まれた中庭で行われた、バトン部や吹奏楽部、コーラス部、有志団体によるダンス披露など盛りだくさんの発表は、白亜祭を華やかに飾ってくれました。ご来場いただいたお客様にも楽しんでいただくことができました。さらに、共立女子大学のフラダンスサークルの皆さんにもお越しいただき、とても華やかな舞台を披露していただきました。



ファイナルパーティーでは、幕開けのカウントダウンから歓声に包まれ大盛況でした。有志団体は今年も素晴らしいパフォーマンスを見せてくれました。教員が参加したクイズも行われ、会場が一体となって楽しむことができました。

我々同窓会も、例年と同様にお茶を用意した休憩室を設けさせていただきました。復興支援企画として東北のお菓子の販売や共立女子大学とJA全農さいたま共同開発の低糖質パンの販売も行い、たくさんの方が購入してくださいました。白亜祭実行委員会をはじめ、先生方や保護者様、多くの方々の支えがあり、今回の白亜祭も大成功でした。来年度も我々OGは、在校生やお客様の心に残る白亜祭となるようお手伝いさせていただきます。来年の白亜祭も是非足を運んでいただけます。



第四十七回生

長坂毬亜

長谷川玲香

瀬尾ひとみ

共立二一高 ターム留学

今回は、国際交流担当の高橋学先生に、昨年度から始まったターム留学について伺いました。まず、「ターム」とは、「学期」のことで、この留学においては、高校一年生の三学期をまるまる使って留学をするプログラムです。夏のホームステイ二週間だけでは物足りない、しかし、一年間では、費用も高くてなかなか行きづらいということから、三ヶ月という期間に限定して始めようと思ったそうです。

このターム留学の大きなメリットの一つは、留学中の成績等を他の生徒達と同じようにつけることができることです。このことによつて、生徒の



その後の学校生活に支障が出ることはありません。学校としても、単位読み替え等の教務的な問題を減らすことができるようです。加えて、学校が企画する三ヶ月以上の留学の場合は、東京都私学財団から補助金を申請できるそうです。補助金を利用することによって、家庭の経済的負担を軽減することができます。のも大きなメリットと言えます。

留学に参加するにあたっては、生徒たちには目安として英検準二級を持っていること、また、普段の成績が良好であることを考慮しています。初年度のターム留学参加者は五人、昨年度は十一人の参加がありました。高校一年の五月に申し込みをし、七月の第二定期考査までの成績を基に参加者を決定します。参加決定後の流れとしては、夏休み期間にネイティブ教員による英語集中講座が設けられています。十月～十一月の間には業者による事前学習講座が数回行われます。

留学先となる現地、ニュージ



ーランドの首都ウェリントンでは、ホームステイ先でホストファミリーと生活します。到着してから二週間は語学学校に通うので、実質二ヶ月間現地の学校で授業を受けることになりました。一校に約二～三人わり当てるようにしているそうです。初年度は三校、昨年度は現地校五校に割り振ることになったそうです。

初年度実際に実施してみても手応えを高橋先生に伺ってみたところ、「参加した生徒は皆とても素晴らしい体験をして帰ってきました。まだ『ターム留

学』のを知っている人が少なかったこともあって、五人しか参加することができませんでした。しかし、昨年度の参加者は前述のように、十一人と倍増しているのです、このプログラムが周知されてきたのではないかと感じています。」とおっしゃっていました。

生徒たちにとってこの留学が、「もつと英語を学びたい」という次のステップへの学習意欲、また、女性の社会進出が進んでいるニュージールランドで生活することで「社会に出て活躍したい」と感じられる経験を得られる有意義なものになれば、と先生方は願っています。



第四十七回生 杉本 花

鈴木愛依里

恩師は語る

シリーズ三十三

保健体育 紺木美奈子先生



Q. 教師になってよかったです。出来事はありましたか？

A. 体操に関わる仕事がしたいと思っていました。授業、行事などを通じて生徒たちの成長を見届けることができるのもこの仕事の特徴です。また部活動では深い関係を築けるのも良いところです。

Q. 四十七回生にどんな思い出がありますか？

A. 和気藹々とした居心地がよい学年でした。高1の合唱祭では一丸となって歌う姿に感動し

ました。高2の白亜祭でチャレンジしたトロッコや高3の体育大会での頑張りも印象的です。

Q. 子育てと仕事の両立はどのようにしていましたか？

A. 職場に両立させていただけの環境があったことが一番です。今は子供が小学生になり、少しずつ手がからなくなってきました。子育てが仕事に役立つこともあります。

Q. 生徒との関わりで大切にしていることはありますか？

A. 生徒にとつて何が1番か考えるようにしています。個々の力を信じ、自らが判断して行動できるように心がけています。

Q. 卒業生にどんな女性になっしてほしいですか？

A. 人生には喜怒哀楽があります。前向きに楽しめる人であってほしいです。座右の銘に「人生とは自分を見つけることではない。人生とは自分を創ることである。」があります。

第四十七回生 小俣亜由菜

加藤星来
高橋風花

家庭科 藤井 真実子先生



Q. 四十七回生の印象は何ですか？

A. 元気でパワフル。良い意味で型にはまらない生徒が多かったです。

Q. 四十七回生との楽しかった思い出を教えてください。

A. 修学旅行や体育祭、白亜祭も、もちろん思い出深いですが、放課後の何気ないお喋りがとても楽しい思い出です。

Q. 教師としてのやりがいは何ですか？

A. 毎日が同じ繰り返しですが、ルーティンワークのようにだけれど、三六五日が常に新鮮で、刺激的な仕事です。生徒たちと同じ時間を過ごしながらか嬉し哀楽を共有しつつ、成長を見届けられるのは教師の仕事ならではの思い出です。

Q. 共立生の良いところを教えてください。

てください。

A. 人懐っこいところ。素直ですぐに心を開くところ。

Q. 四十七回生にメッセージをお願いします。

A. 失敗を恐れず、失敗してもそれに立ち向かっていける人になってください。失敗を回避する人生ではなく、全力で今やるべきことに挑戦してください。

失敗から学んでやろうというくらいの気持ちで進んでいってほしいです。

Q. これからの四十七回生に期待することはありますか？

A. 謙虚であり続けてほしいです。既にすごいスピードで常識が変化する時代になっています。この変化する時代に対応できる姿勢とは謙虚になることだと思います。変化を受け入れながらわからないことや新しいことが出てきても素直な心で教えてもらうことで変化に対応できます。ぜひ謙虚な人になってください。

第四十七回生 櫻井梨莉華

鈴木詩織

母校の香り

私は二〇一九年三月、六年間お世話になった共立女子第二を卒業しました。現在十八歳の私にとって本校で過ごした時間は人生の三分の一を占めることとなります。

豊かな自然に囲まれたこの八王子キャンパスで、私はたくさんの貴重な経験をさせていただきました。その多くは、共立ならではのことで、また、このキャンパスならではのことで、それらのおかげで私は大きく成長することが出来ました。

卒業した今、人生の三分の一という大きな割合を占め、またその後の人生にも大きな影響を与えるだろう中高時代を共立女子第二で過ごせたことへの感謝をより大きく感じています。今後も共立女子第二で得た貴重な経験を活かし、さらなる成長を遂げられるよう、日々精進していきます。

第四十七回生 森脇佳乃子

《第四十七回生幹事紹介》

副会長 森脇佳乃子(五組)
 会計 高橋風花(三組)
 幹事 榎原実咲(二組)
 大塚捺子(二組)
 瀬尾ひとみ(二組)
 長坂毬亜(二組)
 長谷川玲香(二組)
 小俣亜由菜(三組)
 加藤星来(三組)
 櫻井梨莉華(四組)
 鈴木詩織(四組)
 浜本朱里(五組)

《第四十八回生幹事紹介》

副会長 渡辺郁花(五組)
 会計 山田萌織(一組)
 幹事 鶴田桃子(一組)
 竹市佳加(二組)
 藤田 遥(二組)
 上野由真(三組)
 高木結衣(三組)
 高橋花奈(三組)
 三浦梨々佳(五組)
 杉本 花(六組)
 鈴木愛依里(六組)
 井上綾乃(四組)
 銅崎奈穂子(四組)
 中村晃子(五組)
 土井江玲菜(六組)
 東本 響(六組)

主な行事予定

- 4月5日(日) 入学式
- 6月6日(土) 体育大会
- 7月19日(日)～8月31日(月) 夏期休暇
- 8月15日(土)～8月26日(水) 高校ニュージーランドホームステイ
- 9月12日(土) 13日(日) 白亜祭
- 9月29日(火)～10月1日(木) 中学2年ブリティッシュヒルズ研修
- 10月7日(水)～10月10日(土) 中学3年京都奈良修学旅行
- 10月7日(水)～10月10日(土) 高校2年北九州修学旅行
- 12月23日(水)～1月11日(月) 冬期休暇
- 1月22日(水) 高校推薦入試
- 2月1日・2日 中学入試
- 2月10日・12日 高校一般入試
- 3月17日(水) 卒業式
- 3月19日(金)～春期休暇





S 教職員人事

▽三月定年退職職員（敬称略）

小室 洋子（国語）

▽三月退職職員（敬称略）

小池 聡彦（英語）

S 訃報

▽平成三十一年二月、元理科教員で化学担当の多田英次先生が逝去されました。大らかなお人柄で、多くの生徒たちに慕われておられました。長年ソフトボールのお仕事でも活躍され、ご退職後も本校に度々お元気なお姿を見せてくださっていました。

▽平成三十一年三月三十一日に、元校長、社会科教員で日本史担当の関和彦先生が逝去されました。力強い板書の跡が消えなくて掃除当番泣かせでした。古代史研究者としても活躍され、多くの著書も残されました。お二方とも本校創立の翌年から

教鞭をとられ多くの卒業生を送り出されています。改めて感謝の意を表し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

S お知らせ

▽総会・懇親会開催

母校設立五十周年を記念して十月十七日（土）に開催予定です。詳細はホームページに掲載致しますのでご覧ください。また学校の五十周年記念誌委員会では、過去の集合写真なども掲載予定です。つきましては掲載を望まれない方はご連絡願います。

（担当：池田）

▽同窓会収入減に伴う

措置について

近年の入学者の減少、消費税増税に伴う値上げにより、今まで通りの支出が困難になり、様々検討して参りました。そこで、先日葉書にてお知らせ致しましたように、今年度より会報を学校のホームページ上よりの閲覧とし、郵送は廃止させていただきますことになりました。ご理解の

ほどよろしくお願い致します。なお同期会等の援助は継続しますので、希望される代表の方はお問い合わせ下さい。

（担当：湊・高島）

S お願い

▽進路指導部より

「職場体験」（中三対象十一月頃）「社会人の体験談や生き方講演」進路指導の一環として、右を引き受けて下さる方を求めています。ご連絡お待ちしています。

（担当：萩原）

▽講師採用事前登録者募集

中学校・高等学校の教員免許をお持ちの方は履歴書を学校長宛にお送りください。状況に応じてご連絡差し上げます。

▽白亜祭を応援してください！

白亜祭はどの年代の方々にも思いつく深い行事の一つではないでしょうか。ぜひ校舎見学も兼ね後輩たちの活動を応援にお出下さい。なお、同窓会の休憩室コーナーで震災等支援目的の物

品（主に手作り）販売ご希望の方、白亜祭を更に盛り上げるアイデアをお持ちの方は、ぜひご連絡ください。

（担当：宮崎・浅田）

▽住所等変更のお届け

毎年転居先不明で戻る郵便物が一割程度になります。住所、番、姓名等変更の際は、会員ご本人直筆の文書またはフアックスで、同窓会宛に会員番号（宛名下の五桁の番号、不明の場合は卒業年と担任名）を明記の上お知らせ下さい。セキユリテイの関係でメールではお受けできません。なお、ご友人からの連絡はご本人に確認の電話をしております。また値上げ前の葉書でお知らせいただく際は不足分の切手をお貼り下さるようお願い致します。



2019年度 同窓会 会計報告

2020年3月31日

1. 前年度繰越金 (A)	2,735,218 円
2. 収入の部 (B)	
・48回生同窓会会費	1,860,000
・銀行利息	9
	<hr/> 1,860,009 円
3. 支出の部 (C)	
・桜の友第36号印刷費	514,480
・桜の友第36号郵送費	628,940
・封筒代・封筒印刷費	88,128
・学校行事支援費	135,153
・運営費	79,550
・交通費	11,240
・事務費(OA関連費・文具・物品代)	37,530
・予備費(慶弔費・クラス会同期会支援等)	126,200
・雑費(手数料等)	1,512
	<hr/> 1,622,733 円

○残高 A+B—C

2,735,218円+1,860,009円—1,622,733円=2,972,494円

(次年度への繰越金)

○資産

1,500,000円(定期預金)

会計 46回生 矢坂友香
47回生 高橋風花

2020年度 同窓会 予算書

2020年4月1日

1. 前年度繰越金	2,972,494 円
2. 収入の部	
・49回生同窓会会費	1,728,000 円
3. 支出の部	
・運営上のお知らせ(印刷・葉書代)	550,000
・総会・懇親会費	1,500,000
・総会準備費(案内状印刷・郵送費・記念品等)	1,200,000
・創立50周年寄贈記念品	800,000
・通信費	20,000
・学校行事支援費	150,000
・運営費	100,000
・交通費	50,000
・事務費	50,000
・予備費(慶弔費・クラス会同期会支援等)	100,000
・雑費	10,000
	<hr/> 4,530,000 円